

令和5年度シラバス

Ⅱコース3年（文系）

日本大学東北高等学校

目 次

学校シラバス	… 1
年間行事計画Ⅱコース3年	… 2～ 4
現代文B	… 5～ 6
古典B	… 7～ 9
世界史B	… 10～ 12
倫理	… 13～ 16
政治・経済	… 17～ 20
数学Ⅱ・B	… 21～ 24
化学基礎	… 25～ 29
生物基礎	… 30～ 32
体育	… 33～ 36
コミュニケーション英語Ⅲ	… 37～ 39
英語表現Ⅱ	… 40～ 41
英語表現Ⅱ演習	… 42～ 43
情報の科学	… 44～ 46
総合的な探究の時間	… 47～ 48

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ
- 2 新校舎を大切に学ぼう
- 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画, 防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練, および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業, ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。 4 交通安全教室, スマホ安全教室等を実施し, 生徒の危機管理意識を育成する。

◇年間行事計画

Ⅱコース3学年

	指導内容・行事	指導のねらい
4月	二者面談	・生徒間、教員との信頼関係の構築
	基礎学力到達度テスト	・基礎学力の定着、自己分析
	進路希望調査	・自己理解と目標設定
	登校指導	・基本的な生活習慣の確立
	シェイクアウト訓練	・危機管理意識の醸成
	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	学級懇談会	・教員—保護者の信頼関係の構築
5月	校内体育大会	・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	保護者参観授業	・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	1学期中間試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	英検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
6月	ベネッセ共通テスト模試	・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題の設定
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	文化講演会	・豊かな感性の育成 ・広い視野の獲得
	数検、漢検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
	1学期期末試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
7月	アカシヤ祭	・自己理解を深める ・創造力、表現力の伸長 ・他者と協働する力を育む
	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	進学説明会	・入試に関する情報の収集 ・受験に向けての意識高揚
	三者面談	・家庭との連携 ・信頼関係の構築

		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の理解と目標の設定
	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力の伸長 ・既習事項の理解を深める ・学年を越えた交友関係の構築
8月	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	夏期進学特別補習	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・弱点、苦手分野の克服
	全統共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	小論文模試	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力、読解力、文章を書く力の伸長
	全統記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力の測定 ・記述力を高める
9月	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の確認
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める
	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着、自己分析
10月	校内体育大会（運動会）	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	2学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	ベネッセ駿台記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力を測る ・記述力を高める
	芸術鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術への造詣を深める
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
11月	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	二者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定
12月	2学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る

	校内大学入学共通テストプレ	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格への課題設定
	特別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格に向けた実践演習
	出願校検討	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定
	冬期進学特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト（入試）に向けた総仕上げ
1月	大学入学共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の集大成！
	三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・出願校の検討および決定
2月	個別試験対策特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・私大入試、国公立大2次試験に向け学力を高める。
3月	卒業証書授与式	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の振り返り ・これからの目標の確認

科目	単位数	対象学年	対象クラス
現代文B	3	3	Ⅱコース

教科書名 現代文B (数研)

副教材名 入試につながる現代文 (ラーンズ)

現代文 共通テスト+センター試験国語過去問題 (尚文出版)

同音同訓漢字帳 (いいずな書店) クリアカラー国語便覧 (数研出版)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた基礎的な読解力を基に、演習の量を増やすことによって大学入試共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【評論】(教科書) 2. 【小説】(教科書) 3. 「入試につながる現代文」 4. 模試事前指導および解説 【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	〔目標〕 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 〔内容〕 ①教科書(評論文)を利用して、主題の把握、論拠の整理、論理展開の整理方法を学ぶ。 ②教科書(小説)を利用して、登場人物の心情表現、比喩表現、表現効果等を説明する力を養う。 ③「入試につながる現代文」を利用して、入試頻出著者の文章で演習し、対応力を養成する。 ⑤模試を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
		【第1学期の評価方法】 定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	《演習》 「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用	〔目標〕 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 〔内容〕 大学入学共通テスト予想問題や模試を利用し、実践力を身につける。
	10 ～ 12	【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	
		【課題・提出物】 適宜課題を課す。	
		【第2学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点20%	

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》 「大学入学共通テスト問題集」を利用	〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	2	【大学入学共通テスト後】※文系のみ 《演習》	
	【課題・提出物】		適宜提出物を課す
【第3学期の評価方法】		定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%	
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	文章を読む力を進んで高めるとともに、作品についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	文章を読んで思想や感情などを的確に捉え、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	相手や目的・意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

1年次に確認した「3つの力（類比・対比・因果）」を、2年次には教科書・模試等で活用し、解法として定着させてきました。設問に対してどのようなプロセスで解答を導き出すか、論理的に文章を捉えることができるかが大事です。文章が変わったとしても、きちんと論理的思考力、「3つの力」が身につけていれば対応できます。3年次には演習が多くなりますが、ただ量をこなせばよいというのではなく、解答のプロセスを言葉で説明できるようにしてから、多くの文章に取り組むようにしてください。また、現代文で大切なのは復習です。模試等は解いたら終わりではなく、必ず間違えた問題を解き直し、言葉で説明できるようになるまで復習しましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
古典B	3	3	IIコース文系

教科書名 古典B (大修館)

副教材名 古文攻略マストアイテム (桐原書店) 解法古文単語 350 (数研出版)

精選漢文 (尚文) これからの古典文法(尚文出版)

大学入学共通テスト準備演習 古文・漢文 (数研)

共通テスト国語対策問題集 標準から実践へ 古典編 三訂版 (桐原)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた読解のための基礎力を基に、演習を繰り返すことで大学入学共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【古文】(教科書) 2. 【漢文】(教科書) 3. 「大学入学共通テスト準備演習」 4. 模試事前指導および解説 ●《実践力の養成(1)》※特指 ◆模試事前指導および解説 ◆基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕基本的文法事項の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕基本的句法の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【特指】 〔目標〕問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
		【第1学期の評価方法】 定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
--	---	------	--------

2 学 期	9 ～ 10	<p>1. 【古文】【漢文】《演習》 「共通テスト国語対策問題集」を利用</p> <p>● 《実践力の養成（2）》※特指 ◆ 模試事前指導および解説 ◆ 基本事項の再確認</p> <p>【定期試験】 ① 古語単語・漢文語彙 ② 文語文法に関する知識 ② 漢文句形や文構造に関する知識 ② 読解問題</p>	<p>【古文】 〔目標〕 様々な古文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ① 主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ② 文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。</p> <p>【漢文】 〔目標〕 様々な漢文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ① 主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ② 文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。</p> <p>【特指】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕 模試や副教材を利用し、実践力を身につける。</p>
	10 ～ 12		
		【課題・提出物】 適宜課題を課す。	
		【第2学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点 20%	
3 学 期	月	学習内容	学習のねらい
	1	<p>【大学入学共通テストまで】 《演習》「共通テスト国語対策問題集」を利用</p>	<p>【古文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。</p> <p>【漢文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。</p>
	2	<p>【大学入学共通テスト後】 《演習》過去問などを適宜使用</p>	
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す	
		【第3学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%	
		【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣	

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、身に付けた知識を的確に使用し、現代語で表現できる。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

古典学習ではまずは知識の習得が大切です。古語単語・古典文法(助詞、助動詞)・漢文句形・漢文の語彙・漢文の文型などをしっかりと身につけてください。その上で、演習問題などを通して文脈を把握し、設問に応じて解答する技能を身につけてほしいと思います。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
世界史B	3	3学年	IIコース文系

教科書名 詳説 世界史B

副教材名 新詳 世界史図説

世界史B用語集

大学入学共通テスト過去問題集

1. 科目目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ② 世界に歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	帝国主義の成立 ・ イギリスの国情 フランス・ドイツの国情 ロシアの国情・ アメリカの対外膨張 アフリカの分割	・ヨーロッパの進出に対するアジア諸国の外交・ 内政について理解するとともに、アジア同士の 国際関係についても理解する。
	5	太平洋分割・ ドイツの世界政策 確認テスト（単元テスト） 中国の分割・ 義和団事件 日露戦争と韓国併合	・第2次産業革命の中、「帝国主義の時代」が始ま り、欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶ とともに、アジアにおける対応の様子を各地域 の特色を踏まえ理解する。
	6	辛亥革命・ アジアの民族運動 バルカン戦争・ 第1次世界大戦 ロシア革命・ ネップとソ連の成 ヴェルサイユ体制・ ワシントン会議 イタリアのファシズム ソ連の社会主義建設 アメリカ合衆国の繁栄 1学期末試験 特指 進研模試・全統模試予習・復習演習	・「世界政策」について検討し、それがイギリスへ どのような影響を与えたか検討する。 ・アメリカの中国政策の特徴を理解する。 ・辛亥革命の性格およびその成果について考察す る。 ・三国協商の結果、ドイツとの対立が激化したこ とを認識する。 ・総力戦として行われた、二つの世界大戦の原因 と影響を把握する。 ・ロシア二月革命と十月革命とを対比させて、そ れぞれの性格について理解する。
		【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント	・授業ノート・ファイルの点検
		【第1学期の評価方法】	
		① 定期試験の成績（70%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。	
		② 学習態度等の平常点（30%） ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。	

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	7	1次大戦後の東アジア・北伐 インドの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟と国際連合の成立過程、および平和構築 に向けての具体的強制力の相違を理解する。 ・国際連盟と比較することで、国際連合の特徴を理解する。 ・国際連合は、米・英主導による連合国の平和機構として発足した点を認識する。 ・戦後の西欧と東欧諸国との体制や政治の違いを認識する。 ・アメリカとソ連の対立がエスカレートしていく過程を、具体的な出来事を踏まえて考察する。 ・冷戦はあくまでもヨーロッパのことであって、アジアでは朝鮮戦争のように熱い戦争になった事実を認識する。 ・なぜアジア・アフリカ諸国が第三勢力に結集したかを考察する。 ・冷戦終結後の世界について、政治・文化・経済等のグローバル化が、「アメリカ化」であることに反発がおこっていることを理解する。 	
	8	東南アジアの民族運動 トルコ革命・世界恐慌 ニューディール政策・満州事変 ナチスの台頭・スペイン内乱 第2次世界大戦・国際連合		
	9	ヨーロッパの冷戦 中華人民共和国の成立 朝鮮戦争・雪どけ 第三世界の連携 米ソ両大国の動揺 文化大革命 ベトナム戦争 冷戦の終結 ソ連の解体 各地の地域紛争		
	10	2学期中間試験		
	11	教科書終了後、大学入学共通テスト過去問題集を利用した演習授業		
	12	2学期期末試験範囲 大学入学共通テスト過去問題より出題特指 進研模試・全統模試予習・復習演習		
	【課題・提出物】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート・ファイルの点検 			
	【第2学期の評価方法】			
	<p>① 定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。</p> <p>② 学習態度等の平常点（20%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 過去問題演習では、その取り組み方も評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。【第2学期の評価方法】 			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	国公立2次試験・ 私立大学入試対策演習	私立大学・国公立2次試験の受験科目に世界史Bがある場合、その傾向にあわせた対策を行う。
	【課題・提出物】 特になし		
	【第3学期の評価方法】 ① 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期中間（1学期と2学期中間までの成績）に進学用の仮評価を行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル
思考・判断	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル ・定期テスト
技能・表現	授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	・授業時の様子 ・定期テスト
知識・理解	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	・成果テスト ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法の相談、学習方法の指導。随時、学習相談を実施しているので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。 ・授業内容に関する質問対応。 ・確認プリントの配布または確認テストの実施。 ・問題演習の授業では、予習が不可欠である。必ず予習・復習に取り組みましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	3 学年	Ⅱコース文系

教科書名 高等学校 新倫理 (清水書院)

副教材名 テオリア 最新倫理資料集 (第一学習社)

用語集 倫理 新版 (清水書院) 進研 WINSTEP 倫理 改訂版 (ラーズ)

1 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探求し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうか深く探求していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも大学入学共通テスト(旧センター試験)や私大の過去問題を活用する)
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるようにコミュニケーション能力を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と伝統 第3節 儒教の日本化 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学	○幕末・明治期に西洋思想を積極的に摂取し、「文明開化」に努めた思想家たちの行動を通して、日本の「近代化」の成り立ちを理解する。 ○近代日本を代表する哲学者・文学者等の思想を学ぶことで、現代の我々にどのような影響を与えているかを理解する。
	5	第5節 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容	

		<p>4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想的傾向への反省 1 学期中間試験</p> <p>第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の受容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和</p> <p>1 学期期末試験</p>	<p>○環境倫理、生命倫理の分野を学ぶことで、現代における倫理的課題について理解する。 ○文化・宗教等の違いを通して、国際社会における多様性と平和共存について考える。 ○家族形態の変化と少子高齢の進行の中、家族の抱えている諸問題を考察し、家族のあり方について自分なりに考える。 ○情報リテラシーの必要性を実感するとともに、情報社会における自己実現のあり方について考える。</p>
		<p>【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>	
		<p>【1 学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。 ②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8	夏期進学補習	
	9	2年時の学習内容の確認・復習 基礎学力到達度試験過去問題演習	○基礎学力到達度試験問題の傾向と対策を図り、基礎学力到達度試験へ対応するとともに、大学入学共通テスト及び、私大入試へつなげる。
	10	第1編 現代に生きる自己の課題 演習問題 第2編 人間としての自覚と生き方 演習問題	○2年時に学習した内容が大学入試でどのような形で出題されているかの傾向と対策を図る。
	11		

	12	2 学期中間試験 第3節 現代社会と倫理 演習問題 第4節 国際社会に生きる日本人の自覚 演習問題 2 学期期末試験	○私大入試対策、大学入学共通テスト対策として、時事問題を各自でまとめる。 ○各自、受験校の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
	【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）		
	【2 学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。 ②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 2	大学入学共通テスト（旧センター試験） 過去問題演習	○大学入学共通テスト二次試験対策として時事問題を各自でまとめる。
	【課題・提出物】 期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）		
	【3 学期の評価方法】 ①学習態度の平常点 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の中間試験は、定期試験の素点である。 総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。 ○平常点は以下を踏まえて、20%以内で算出する。 ①倫理に対する興味と関心 ②授業に対する意欲と関心 ③課題等への取組み（宿題等） ④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）			

3 観点別評価内容および評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができる。	○授業態度・取り組み ○授業ノート・提出物
思考・判断	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察していくことができる。	○授業時の様子 ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができる。	○授業時の様子 ○定期試験
知識・理解	授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	○確認テスト（不定期に実施） ○定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

社会科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、背景などにも関心を抱き、身近に感じることで理解が深まっていく。そのためには、授業を受け身で臨むのではなく、自発的に調べ、わかりにくいところがあれば、お互いに質問しあい、理解することに努めてほしい。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
政治・経済	2	3 学年	Ⅱコース文系

教科書名 高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)

副教材名 政治・経済資料 2022 (とうほう) 用語集政治・経済新訂第 8 版 (清水書院)

新 政治・経済ノート (啓隆社)

1. 教科目標

- 情報化社会、技術革新の時代と言われ、今日の私たちの生活環境の変動にはめまぐるしいものがある。その一方で、第 2 次世界大戦後私たちの生活を規定していた「政治」「経済」などの様々な枠組みが有効に機能しなくなり、見直しが余儀なくされる場面も多々見られるようになってきている。こうした激動の時代に、私たちはどのように考え、何を選択し、いかに行動するかが問われている。政治・経済の授業を通して、これからの社会の中核として生きる高校生が主体的に考え、自分の意見をしっかり持ち、自分の言葉で表現できる力を養っていく。
- 大学入学共通テスト対策として教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、各種試験に対応できる力を養っていく。
- 新聞・ニュースの活用。大学入学共通テスト・私大入試・対外模試では時事問題として現代社会の出来事が問われることが多い。授業の中で新聞・ニュースを取り入れていくことで、論理的思考を養い、各種試験・時事問題に対応できるような力を養う。
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるように、コミュニケーション能力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第 2 編 現代の経済		
	5	第 2 章 金融と財政のしくみ	○金融や財政の仕組みを理解し、現代社会で実際に起こっている経済情勢やニュース等への興味・関心を高め、社会人として必要な知識の獲得を目指す。	
		1 金融のしくみとはたらき		
			2 財政のしくみとはたらき	
			第 3 章 日本経済のあゆみと現状	○戦後の日本経済のあゆみを理解し、歴史分野とリンクさせながら考察を深めていく。 ○日本経済がどのような変化を遂げ、現代社会に結びついているか理解する。
			1 戦後復興と高度成長	
			2 石油危機とバブル経済	
			3 バブル崩壊と失われた 20 年	
			1 学期中間試験	
	6		第 4 章 福祉の向上と日本経済の課題	○中小企業の日本における地位や役割を捉え、日本経済を支えている重要な役割を担っていることを理解する。
		1 労働基本権と労働運動		
		2 今日の雇用問題と労働条件		
		3 社会保障の成立と進展		
		4 中小企業の現状と問題		

	5 環境をめぐる問題 6 消費者をめぐる問題 7 農業をめぐる問題 7 1 学期期末試験 8 夏期進学補習	○日本国憲法における労働基本権の保障と、労働三法の基本的な内容を体系的に理解する。 ○社会問題となっている社会保障制度について理解し、これからの保障制度について考察する。
【課題・提出物】中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認を含む）		
【第1学期の評価方法】		
①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。		
②学習態度の平常点（30%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
月	学習内容	学習のねらい
2 学期	9 第5章 世界経済と日本 1 国際分業と貿易の利益 2 外国為替と国際収支のしくみ 3 グローバル化の進展と国際経済 4 アジア経済と南北問題 5 環境と人口 6 国際経済における日本の役割 10 2 学期中間試験 11 2 年時の政治分野の復習 12 大学入学共通テスト（旧センター試験） 過去問題演習 総合問題 2 学期期末試験 冬期進学補習	○相互依存関係がより強まっている国際経済を貿易面から捉え、国際分業が世界経済にとってなぜ有益なのかをリカードの比較生産費説を通じて確認し、自由貿易と保護貿易の長所・短所を比較して理解する。 ○国際収支と外国為替の基本的な仕組みを概観し、世界経済における国際収支の在り方、外国為替相場の変動が国民経済に与える影響を理解する。 ○戦後の国際経済の基盤となったIMF・GATT体制が成立した歴史的背景を考察し、設置された機関の目的とその内容を理解する。 ○2年時の学習内容の政治分野を復習し、大学入学共通テスト・私大入試に備える。 ○大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
【課題・提出物】中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認も含む）		
【第2学期の評価方法】		
①定期試験の成績：教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テストの過去問・私大入試の過去問からも出題する。		

	②学習態度の平常点 (20%以内で算出) : 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。課題の提出状況 (期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テスト (旧センター試験)	○各自受験校の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
	2	過去問題演習	
	3	他私大受験対策	
	【課題・提出物】 ノート提出 (配布プリントの確認を含む)		
	【第3学期の評価方法】		
	①学習態度の平常点 (20%以内で算出) 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況 (期限の遵守・課題の中身)、確認テスト等の成績を評価する。		
	【年間の学習状況の評価方法】		
	○1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験の総合成績。 ○平常点は以下の点を踏まえて20%以内とする (1学期のみ30%) ①政治・経済に対する興味・関心 ②授業に対する関心・意欲、取り組み ③課題等への取り組み ④年数回 (各定期試験後) のノート提出 (板書事項・配布プリント、配信プリント等の確認)		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル
思考・判断	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。	・授業時の様子 ・授業ノート・ファイル ・定期テスト
技能・表現	授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	・授業時の様子 ・定期テスト
知識・理解	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	・成果テスト ・定期テスト

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

<p>○教科書の中身は抽象的に表現されており、そのまま理解しようとするとは難しく感じるものだが、授業で習っていることは、実は皆さんの身の回りに具体的なものとして存在していることばかりである。その事に早く気づき、抽象的なものを具体的事項として置き換えて理解しようとするれば、知識は深まっていく。</p> <p>○分からない所は、分からないままにするのではなく、積極的に質問に来てほしい。知らないことは恥ずかしいことではなく、知らないことをそのままにしておくことの方が恥ずかしい。理解できない所、つまづいている所があれば積極的に、早めに解決していきましょう。</p>

○2年次から使用している進研WIN STEPを有効に活用し、自主的に取り組みましょう。提出は求めないが、取り組んでいる人と取り組まない人の差は一目瞭然である。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅱ・数学B	5	3年生	Ⅱコース文系

教科書名 数学 A・B Advanced

副教材名 Hi-Prime New Action Legend ⅡB 共通テスト過去問題集 I AⅡB

1. 科目目標

計算力と思考力の融合

- ① 分析力の向上（状況判断する力）
- ② 翻訳力の向上（課題の内容を自分の言葉で言い換える力）
- ③ 目標設定力の向上（課題解決に向かうスモールステップを自分で設ける力）
- ④ 遂行力の向上（課題解決の過程を説明する力）

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 6	数列	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しく並んだ数の性質を学ぶ <input type="checkbox"/>与えられた条件から、どの公式や考え方を用いればよいのかが分かる(①分析力) <input type="checkbox"/>漸化式や群数列の問題を解くことができる(④遂行力) <input type="checkbox"/>数学的帰納法の証明の手順を理解する(①分析力②翻訳力③目標設定力) <input type="checkbox"/>確率漸化式では、推移図を用いて確率の変化を視覚的に表現でき、漸化式を立て、その漸化式を解くことができる(②翻訳力③目標設定力④遂行力)
	7	整数	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の集合でしか成り立たない性質を理解する <input type="checkbox"/>素因数分解を通して、約数や倍数、最大公約数や最小公倍数の理解を深める(①分析力②翻訳力) <input type="checkbox"/>ユークリッドの互除法を学び、不定方程式が解ける(②翻訳力④遂行力) <input type="checkbox"/>記数法に慣れる(②翻訳力)
【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと			
【第1学期の評価方法】			

<p>定期試験の成績を基本とする。平常点を 30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。</p>
--

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8 ～ 9	整数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数の集合でしか成り立たない性質を理解する □素因数分解を通して、約数や倍数、最大公約数や最小公倍数の理解を深める (①分析力②翻訳力) □ユークリッドの互除法を学び、不定方程式が解ける(②翻訳力④遂行力) □記数法に慣れる(②翻訳力)
	10 ～ 12	共通テスト対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実現に向けて、共通テスト対策演習を行う □総合的に実力を伸ばす 2次試験で数学を使う者に対しては、個別に対策する
	<p>【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと</p>		
<p>【第2学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。平常点を 20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ～ 2	共通テスト対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実現に向けて、共通テスト対策演習を行う □総合的に実力を伸ばす 2次試験で数学を使う者に対しては、個別に対策する
	<p>【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと</p>		
	<p>【第3学期の評価方法】 1、2学期までの成績を基本とする。平常点を 20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を 30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって原点をすることもある。</p>			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	授業を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを使い問題の考察や説明をしようとする。	・授業時の様子 ・提出物の状況
思考・判断	授業を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、それらを使い論理的に考察し、説明することができる。	・授業時の様子 ・定期試験
技能・表現	問題を数学的に考察し、処理する仕方や推論する技術を身に付け、解決することができる。	・授業時の様子 ・定期試験
知識・理解	授業を通して、基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識が身に付いている。	・定期試験

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違え事をしないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず

丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Hi-Hi-Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→Hi-PrimeA 問題、New Action Legend ★マーク 1～2
- ・ 考える力をつけたい→Hi-PrimeB 問題、New Action Legend ★マーク 3～4
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。文系であれば、最終的に目指すべきところは共通テストであり、そこで点数を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「**典型問題は素早く確実に解けるような演習**」(①分析力②翻訳力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化学基礎	2	3	文系クラス

教科書名 新訂版 化学基礎(実教出版)

副教材名 ビーライン化学基礎2023

2024共通テスト対策直前演習 化学基礎

1 科目目標

これまで勉強した内容を共通テストに向け確実なものにしていく。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	3章 物質の変化 3節 酸化還元反応の起こりやすさ 金属のイオン化傾向 金属の反応性 電池のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 金属のイオン化列を利用し、空気、水、酸との性質に関する問題に対応できる力を育成する。電池の原理を理解する。ボルタ電池、ダニエル電池の仕組みも理解する。 	
	5	総復習 1章 物質の構成 1節 物質の探求 1 物質の種類と性質 2 化合物と元素 3 物質の三態と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物を分類、物質の精製操作の仕組みと注意点について理解する。 化合物と単体、元素と単体の分類、同素体の意味を理解する。 粒子の熱運動、絶対温度について理解する。 	
	6	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造(原子核, 陽子, 中性子, 電子)とその表し方(原子番号, 質量数), 同位体について理解する。 電子の存在の仕方(電子殻, 最大収容電子数, 価電子, 希ガス原子の電子配置)を理解する。 周期律と周期表を理解する。 	
		1学期中間試験		
		2 イオンの生成	<ul style="list-style-type: none"> 原子からイオンができる仕組みを理解する。 生成したイオンのイオン式, 価数, 名称を理解する。 	

	7	<p>3 周期表</p> <p>2章 物質と化学結合</p> <p>1節 イオン結合</p> <p>1 イオン結合</p> <p>2 イオン結晶</p> <p>2節 共有結合と分子間力</p> <p>1 共有結合と分子間力</p> <p>2 共有結合からなる物質</p> <p>3節 金属結合</p> <p>1 金属結合</p> <p>2 金属</p> <p>4節 化学結合と物質</p> <p>1 物質の分類</p> <p>2 金属結合からなる物質とその利用</p> <p>3 イオン結合からなる物質とその利用</p> <p>4 共有結合からなる物質とその利用</p> <p>3章 物質の変化</p> <p>1節 物質質量と化学反応式</p> <p>1 原子量・分子量・式量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン化エネルギー，電子親和力，イオン半径を理解する。 ・周期律を理解する。また，周期表を用い，原子半径・イオン半径の大小関係を判断できる力を育成する。 ・イオン結合の仕組みとその結合で生成したイオン結晶の性質，表し方(組成式)を理解する。 ・共有結合の仕組みとその結合で生成した共有結晶，分子結晶の性質，表し方(分子式，電子式，構造式)を理解する。 ・分子模型を用い分子の構造を理解する。 ・共有結合の例外としての配位結合を理解し，その結合の仕方が判断できる力を身につける。 ・電気陰性度と分子の極性の関係を理解する。 ・金属結合の仕組みとその結合で生成した金属結晶の性質，構造(体心立方格子，面心立方格子，六方最密構造)を理解する。 ・化学結合と各結晶の分類を理解する。 ・質量数 1 2 の炭素を基準とする原子の相対質量(原子量)と同位体の原子量の求め方を理解する。 ・原子量をもとに分子量，式量の求め方を理解する。 ・化学の世界の単位「mol(モル、物質質量)」につい
--	---	--	--

	<p>2 物質量</p> <p>3 溶液の濃度</p> <p>4 化学反応式</p> <p>1 学期期末試験</p> <p>2 節 酸と塩基</p> <p>1 酸と塩基</p> <p>2 水素イオン濃度と pH</p> <p>3 中和反応と塩</p> <p>4 中和滴定</p>	<p>て理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ mol から個数，質量，体積が求め方を確認する。 ・ 質量パーセント濃度，モル濃度の求め方を理解する。 ・ 化学反応式の書き方を理解する。 ・ 化学反応式を用い，様々な値の求め方を理解する。 ・ 化学の基本法則と原子説，分子説を理解する。 ・ 原子説で気体反応の法則が説明出来ない理由を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定義を用い，酸，塩基を分類について理解する。 ・ 分類した酸，塩基の強弱には電離度が関係していることを理解する。 ・ 電離式，水のイオン積を用い，水素イオン濃度の求め方を身につける。 ・ 水素イオン濃度から pH の求め方を身につける。 ・ 酸，塩基を反応させ，水と塩ができる様子を反応式で表わし方を理解する(中和反応)。 ・ 生成した塩の分類を理解する。 ・ 中和反応の関係をを用い，酸，塩基のモル濃度と体積の求め方を身につける。 ・ 中和滴定(中和反応の実験)で使用する器具や操作方法を身につける。 ・ 滴定曲線(実験から得られるグラフ)の種類について理解する。
<p>【課題・提出物】</p> <p>・ 授業中に配布する演習プリント ・ 授業ノート</p>		
<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績(70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・ 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	3章 酸化還元反応 1 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素, 水素, 電子の授受から物質を分類することを身につける。 ・酸化数の定義を理解する。 ・酸化剤, 還元剤の定義を理解する。 ・代表的な酸化剤, 還元剤の反応式の書き方を理解する。 ・酸化還元反応式の書き方を理解する。 ・酸化剤と還元剤の量的関係について理解する。 ・金属のイオン化傾向, 水との反応, 酸との反応について理解する。 ・様々な反応の様子を電子を用いた式で表す方法を理解する。
	10	3 金属の酸化還元反応	
	11	2学期中間試験 対策問題集, 共通テスト予想問題集を利用した実践演習。	
	12	2学期期末試験	
【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・夏季休業中課題			
【2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績(70%) ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	対策問題集, 共通テスト予想問題集を利用した実践演習。	
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート		
	【3学期の評価方法】 ① 定期試験の成績(70%) ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。		

【年間の学習状況の評価方法】

各学期の成績を総合して評価する。

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身につけている。 ・講義式，実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 ・授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 ・操作の意味をよく理解し，実技のレベルが的確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身につけている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・小テスト ・定期テスト

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談を実施するので、箇所があれば早めに質問しにきてほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	3 学年	Ⅱ コース文系

教科書名 生物基礎 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生物基礎 (第一学習社)

進研[センター試験]直前演習 生物基礎 (ラーンズ)

大学入試センター試験実践問題集 生物基礎 (駿台文庫)

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期		「大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生物基礎 (第一学習社)」 による復習と演習	「大学入学共通テスト攻略問題集 ビーライン 生 物基礎 (第一学習社)による演習を通して、生物基 礎の基礎知識を整理し、理解する。
	4	第2章 遺伝子とその働き	
	5	第3章 生物の体内環境	
	6	1学期中間試験 [8時間] 第4章 バイオームの多様性と分布 第5章 生態系とその保全	
		1学期期末試験 [8時間]	
		【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する	
		【第1学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績 (70%) ・ 学習態度及び提出物 (30%)	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎（ラーズ）」による演習 第1回～第10回 2学期中間試験[11時間]	「進研[センター試験]直前演習 生物基礎（ラーズ）」による演習を通して、センター試験に対する応用力を身に付ける。
	10	「大学入試センター試験実践問題集 生物基礎（駿台文庫）」による演習 第1回～第5回 2学期期末試験 [13時間]	「大学入試センター試験実践問題集 生物基礎（駿台文庫）」による演習を通して、センター試験に対する実践力を身に付ける。
	11		
	【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する		
【第2学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	センター試験予想問題による演習	センター試験のための直前対策により、入試で必要な学力を身に付ける。
【年間の学習状況の評価方法】 ・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト

4. 学習サポート

<ul style="list-style-type: none"> 随時、学習相談を実施しています。
--

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①挨拶・集合・体形 ②方向変換・列の増減 体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画 (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次） 陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できる力を身に付ける。 ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。 ・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響 ・2年次までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切にし、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。 ・毎年継続して記録する、スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。

	<p>スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p> <p>ソフトテニス</p> <p>① オリエンテーション</p> <p>② グランドストローク (フォア・バック・ロブ)</p> <p>③ バックハンド</p> <p>④ サービス</p> <p>⑤ ルール</p> <p>⑥ ゲーム（簡易ゲーム・ダブルス）</p> <p>理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営などを学ぶ</p>	<p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p> <p>ソフトテニスの基礎技術を身につけ、ネット型スポーツの特性を理解する。 (生徒自らが)主体的にゲームを中心とした活動が出来る力を育成する。 フォアハンド、ロブを重点に習得し、ラリー（乱打）を継続できる力を身に付ける。 バックハンドの技術, およびサービスを狙った所へ打つことの出来る力を身につける。 生徒の技量に合わせた内容で試合（簡易ゲーム含）が出来る力を身に付ける。</p> <p>生涯スポーツの選択肢の一つとして、ソフトテニスも含まれるような知識、技能を習得する。</p>
<p>【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施する。</p>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>1. 実技試験（60%）</p> <p>①ソフトテニスの基礎技術に関する試験を実施する。 グランドストローク（フォア・バック）、サービス、簡易ゲームによる技術的評価</p> <p>②スポーツテスト（新体力テスト）</p> <p>・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び ※実施時間数によって上記種目から選択をし、評価に加える。</p> <p>2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <p>・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>体づくりの運動</p> <p>① 体ほぐしの運動</p> <p>② 体力を高める運動</p>	<p>長期休業後の体力回復、怪我、病気等の予防につながる力を養う。</p> <p>特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。</p>

	10 11 12	〔球技選択〕 バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール等 ・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施 体育理論 ・実施する種目のルール・技術の知識の習得	今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、自らが主体的となって種目（授業）を展開する力を身に付ける。 生涯スポーツにつなげられるよう、多岐にわたる種目を選択・実施する。 実施する種目ごとに基礎的スキル・ルール、ゲームの進め方についての知識・技能を習得する。
	【課題・提出物】 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施する。		
	【第2学期の評価方法】 ①実技試験（60%） ・主とする実施種目への取り組み及びスキル評価表を基に評価する。 ※選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	〔球技選択〕	授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを学習する。 種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進める力を身に付ける。
	【課題・提出物】 なし		
	【第3学期の評価方法】 ①実技試験・授業への取り組み（60%） ・主とする実施種目への取り組みを基に評価をする。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末に進学用の仮評定を算出する。 学年末の評定（評価）は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 上記を総合的に判断して評価をする。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	欠席が少なく、授業への積極的参加ができる。 安全に配慮し主体的に取り組むことができる。 多様性を理解し仲間と協力することができる。 健康・安全に配慮した服装でできる。	観察
思考・判断	自己や仲間の状況に応じて体力向上を目的とした運動を継続できるような計画が工夫できる。 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。	観察
技能・表現	各運動の特性に応じ勝敗を競い合う、攻防が展開できる。 実施する種目の特性に応じ段階的な技能を身に付け、自分が表現したいことができる。	実技テスト 観察
知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称やルールを学び、主体的に試合をすすめることができる。 簡易ゲーム、ミニゲームを運営し、審判などでゲームを進めることができる。	小テスト 観察

4. 学習サポート

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
コミュニケーション英語Ⅲ	4	3	Ⅱコース

教科書名 Revised POLESTAR English Communication Ⅲ (数研出版)

副教材名 駿台共通テスト対策過去問題集 (駿台文庫)

2024 大学入学共通テスト対策・オリジナル問題集 共通テスト英語 40 分プレノート
(数研出版)

NEO 現代を見る (いいずな)

英単語ターゲット 1400 (旺文社) 英文で覚える 英単語ターゲット 1400R (旺文社)

1 科目目標

単語、熟語、文法、文構造の把握を通して長文を理解する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○Lesson 1 The Future of Nursing-Care Robots	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルから本文の内容を推測する。 ・単語、熟語、文法、文構造の把握を通して本文の内容を正しく理解する。 ・本文の内容を正しく理解できているかをコミュニケーション活動を通して確認する。
	5	○Lesson 2 Making English the Official Language in the Office	
	6	○Lesson 3 An Appalling Waste of Food ○Lesson 4 Mastering the Art of Living	
	7	1 学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【1 学期の評価方法】 素 点：70% (1 学期中間試験、1 学期末試験) 平常点：30% (課題・提出物等)			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○Lesson 5 Understanding Communication without Words	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルから本文の内容を推測する。 ・単語、熟語、文法、文構造の把握を通して本文の内容を正しく理解する。

	10	○Lesson 6 How to Make Japan “Cool” 共通テスト英語 40 分プレノート 駿台共通テスト対策過去問題集 2 学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を正しく理解できているかを確認する。 ・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	11	○Lesson 7 The Growth of Dictionaries in Japan	
	12	○Lesson 8 Questions without Correct Answers 2 学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【2 学期の評価方法】 素 点：80%（2 学期中間試験、2 学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物等）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学期	1	駿台共通テスト対策問題集 大学入学共通テスト 入試対策	<ul style="list-style-type: none"> ・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	2		
	3		
【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【3 学期の評価方法】 素 点：80%（1 学期中間試験、1 学期末試験、2 学期中間試験、2 学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物等）			
【年間の学習状況の評価方法】 素 点：80%（定期試験の素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	単元毎のテーマに関心を持ち、自ら学習に取り組むことができる。	授業態度、小テスト、定期試験
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	英語で表現することができる。	小テスト、定期試験
知識・理解	英語を正しく理解することができる。	小テスト、定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

知識を増やすことは大切です。読む目的を意識して、知識を正しく使いこなせる状態を目指してください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ	2	3	Ⅱコース

教科書名 Vision Quest English Expression Ⅱ Ace (啓林館)

副教材名 スクランブル英文法・語法 4th Edition (旺文社)

スクランブル英文法・語法 準拠トレーニング問題集 (旺文社)

1 科目目標

文法と文構造を徹底的に理解する。また、英文を見た瞬間にその内容をイメージできる。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Vision Quest Lesson 4、5 動詞を決める	<ul style="list-style-type: none"> ・文型の知識を確認する。 ・文法の基本を確認する。 ・構文を確認する。
	5	スクランブル問題集 第1章～第3章 時制、受動態、助動詞	
		1学期中間試験	
	6	第4章～第6章 不定詞、動名詞、分詞	
	7	1学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や長期休業期間中等に使用する副教材			
【1学期の評価方法】 素 点：70%（1学期中間試験、1学期末試験） 平常点：30%（課題・提出物）			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第24-1・2章 動詞中心のイディオム 第21章 重要同意語	<ul style="list-style-type: none"> ・イディオムを身につける。 ・パラフレーズを理解する。
	10	2学期中間試験	
	11	第24-3・4章 章動詞中心のイディオム	

	12	第22章 重要多義語 2学期末試験	
	【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や長期休業期間中等に使用する副教材		
	【2学期の評価方法】 素点：80%（2学期中間試験、2学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト	・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	2	入試対策	
	3		
	【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材		
	【3学期の評価方法】 素点：80%（1学期中間試験、1学期末試験、2学期中間試験、2学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物）		
	【年間の学習状況の評価方法】 素点：80%（定期試験の素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	単元や出題形式に沿って、自ら学習に取り組むことができる。	授業態度、小テスト、定期試験
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	英語で表現することができる。	小テスト、定期試験
知識・理解	英語を正しく理解することができる。	小テスト、定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

短時間で文の内容を理解して問題を解くために、1つずつ丁寧に覚えてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ 演習	1	3	Ⅱコース

副教材名 リスニング・エース 10 UPGRADED 改訂版 (美誠社)
共通テストリスニング実践 30分 (エミル出版)

1 科目目標

音声知覚と意味理解を通して、リスニングの力を養成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	リスニング・エース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出題形式を理解する。 ・ 音声の聞き方を理解する。 ・ メモの取り方を身につける。 ・ 解答の根拠を聞き取る。
	5	ミニテスト 1～16	
	6	ミニテスト 25、26	
	7		
【課題・提出物】 小テスト			
【1学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。			
2 学 期	9	リスニング・エース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答の根拠を聞き取る。 ・ 30分のリスニングの時間に慣れる。
	10	ミニテスト 17～24	
	11	共通テストリスニング実践 30分	
	12	第1～6回	
【課題・提出物】 小テスト			
【2学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。			
3 学 期	1	共通テストリスニング実践 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声の聞き方、メモの取り方を確認する。
		第7回 大学入学共通テスト	

2		
3		
【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材		
【3学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。		
【年間の学習状況の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	英語を聞いて、積極的に理解しようとする。	授業態度
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	自分の考えを表現することができる。	課題
知識・理解	聞こえてくる英語の内容がわかる。	授業態度、小テスト

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

単語の発音、音の変化を知らなければ、話の内容はわからないままです。英語の音を聞き分け、その音が意味する内容を理解してください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
情報の科学	1	3 学年	I・IIコース

教科書名 情報の科学（日本文教出版）

副教材名 情報モラル（数研出版）

1 科目目標

- | |
|---|
| <p>① 現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を、科学的な見方・考え方で理解し習得する。また情報を利用する上で大切なモラルの向上を目指す。</p> <p>② 各種情報機器やインターネットの利用を通じて、科学的思考力や判断力などを養う。</p> <p>③ 各種プログラミングを通じて問題解決能力を身に付ける。</p> |
|---|

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガイダンス ● PC・教室利用について ● PCの個人設定 ● タイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの個人設定を行い、利用環境を整える。 ・タイピングソフトの利用の仕方を確認し、タイピングに取り組む。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アルゴリズムとプログラミング JavaScript ● 処理手順 ● いろいろなアルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの流れを構造的に図示できるフローチャートや処理手順について理解する。 ・JavaScriptプログラミングを行い、動作させることができる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ネットワークの動作としくみ ● 通信の仕組み ● IPアドレス、ホスト名 ● プロトコル ● インターネットの仕組み ● ドメイン名 ● DNSサーバの役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信に必要な知識や用語を理解し、その仕組みや役割について理解できる。 ・インターネットの仕組みや各種機器の役割を理解し、実際に通信するための情報をネットワークから取得できる。
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント、授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに、タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インターネット ● WWW について ● URL の概念 ● Web ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り，Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。 ・ Web ページを便利に利用するため，検索サイトの構造や使用法について理解する。 ・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。 ・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し，安全な利用法について理解する。 ・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し，安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 1 ● 不正アクセス ● ファイアウォール ● コンピュータウイルス ● スパイウェア 		
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 2 ● 情報の暗号化の仕組み ● 共通鍵暗号方式 ● 公開鍵暗号方式 ● 電子署名，ハイブリッド暗号方式 		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 表計算ソフト ● 表計算ソフトの基礎 ● 計算式 ● 基本の関数 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し，計算式や関数を使用して計算の自動化ができる。
	12	2 学期期末試験		
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>				
<p>【2 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 2 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>				

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 表計算ソフト ● いろいろな関数 ● グラフ表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。 ・グラフ作成の技術を身に付ける。
	【課題・提出物】 実技演習課題		
	【3学期の評価方法】 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	情報に関わる内容に興味を持ち、進んでタイピングやプログラミング等の実習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングテスト ・プログラミング ・授業時の取り組み
思考・判断	モラルやセキュリティに興味を持ち、情報を正しく判断できる。 処理手順を理解し適切なプログラムを構築できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題 ・プログラムエラー処理
技能・表現	プログラミング、エラー処理等の一連の作業ができ、プログラムを動作させることができる。またブラインドタッチなどの技能を修得し、すばやい入力ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムエラー処理 ・実技演習課題
知識・理解	情報に関する知識や用語の意味を知り、適切に利用できる。また OS やアプリケーションソフトの使い方を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ、ブラインドタッチに挑戦しましょう。 ・実技については、毎時間課題を課し、時間ごとの内容を確認するのもしっかり覚えましょう。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合探究	1	3年生	全

教科書名 なし ※プリント学習
副教材名 なし _____

1. 科目目標

- | |
|--|
| <p>① Use active learning to foster independent thinking in a group setting.
② Cooperate with class members to solve problems through discussion.
③ Present individual and group ideas in front of the class.</p> |
|--|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Task 1 What' s cooking?	Instructing others Presenting in front of other people
	5	Task 2 Class Survey	Creating and conducting a survey Reporting and presenting findings
	6		
	7	GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test
【課題・提出物】 N/A			
【1学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Task 3 My Prized Possession	Presenting individually about a possession, describing it and explaining why it is important to you
	10	Task 4 Nandemokantedan	Presenting an item to other groups Understand descriptions in order to choose wisely as a group
	11		
	12	Task 5 Work, Work, Work	Choosing the right person for an occupation through group discussion Stating reasons for opinions
		GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test

	【課題・提出物】 N/A	
	【2学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
	月	学習内容
3 学 期	1	Task 6 Revitalizing Fukushima
		学習のねらい
		Designing a project to revitalize Fukushima Giving reasons and explaining ideas in a presentation
	【課題・提出物】 N/A	
	【3学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
【年間の学習状況の評価方法】 Observation by homeroom teacher		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	Participation in group discussions	Observation by homeroom teacher
思考・判断	Sharing thoughts in presentations	Observation by homeroom teacher
技能・表現	Smoothness in presentation	Observation by homeroom teacher
知識・理解	Content of discussions and presentations	Observation by homeroom teacher

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

Try to speak only in English.
Say at least a few things in English every week.
Use a dictionary every lesson.
Try your best!